

「ククク…
エンジェルピーチ敗れたり」

「くっ…ゆ、油断したわ」

「さあ守るべき人間の
前で醜態を晒すがいい」

「ぐっ…嫌っ!
子供達もいるのよっ!」

「丁度いい、ガキ共よーく見るんだな
大好きなヒーローが無様に
やられるところをな!」



「エンジェルピーチ
負けちゃうの……?」

「やだよ、がんばって」

エンジェルピーチ……!」

「み、みんな……」

「……ん?」

クツクツク……

こいつら応援しながら

股間を膨らませているぞ」

「……っ!」

「面白い……エンジェルピーチ

ガキ共にお勉強をしてやれ

ククク……テーマは性教育だ」

「なっ!何ですって……!?!」

そ、そんな事……」

ギチ……

ギチ……

「さあ、やれ」

「ば、馬鹿な事言わないで……! 誰がそんな事するもんですかっ!」

「俺達が先生で、ガキ共の教材は母親だ」

「そんな事、許されるはずがっ……!」

「いいのか?」

言う通りにしないと

俺の部下達がこいつらを襲うぞ?」

「ひ、卑怯者っ……!」

「強情な奴だ」

仕方ない、一人殺せ」

「わ、分かったわ!」

性教育……や、やるから……」

「ククク……ガキ共、授業を始めるぞ」

あ……♡

ズッ
チュッ

ズッ
チュッ

「ね、ねえみんな……」

私のエッチな姿見てオチ○チンおつきくなつちやつたわよね？

あ、安心して……それは自然な事だから男の子はね、みんなそうなるの……」

「そ、そうなんだ……」

「ねえエンジェルピーチ
ぼく、何だか苦しいんだ病気になつちやつたのかな？」

「それはね、オチ○チンが
おつきくなつたからよ……」

「すごく苦しいよ……ねえどうしたらいいの？」

「そ、それは……」

「どうした？ちゃんと教えてやれ」

「そ、それはね……私がされてるみたいにオチ○チンを
女の人のあ、穴に入れたりすればいいのよ……」

「女の人の穴って？」

「ほら、これは授業なんだ
しつかり教えてやれ」

「オ……オマ○コよ……おつきくなった
オチ○チンをオマ○コに入れるのよ……」

「苦しいのを解消する方法は他にも色々あるんだぞ」

「ほ、他にもオチ○チンを口の中に入れる
フェラチオって方法や……」

「オチ○チンをおっぱいで挟む
パイズリっていうのも有効よ……」

「フェラチオ……パイズリ……」

「へえ物知りなんだね」

「さすがエンジンピーチだ」

「ククク、ヒーローじゃなくて先生に
転職した方がいいんじゃないか？」

「うっ……
くう……！」



「わかったよ、オマ○コに入ればいいんだね
だけど、何だか怖い……それに痛くはないの？」

「大丈夫よ……こ、これはね、寧ろ気持ち良いものなんだからっ
痛くも怖くもないわっ……」

「よし、先生達が見せてやろう」

「えっ……!!」

「そろそろ出そうなんだ
俺達がイクところ、ガキ共に
見せてやるんだよ」

「ちよつと待って!
お願い、それだけはっ……!!」

ぬっちゃ♡

ぬちゃ♡

ゴウ
ゴウ♡

「よーし、さくら……!!」

「おらっおらっ！ガンガン突くぞ！
お前も気持ち良いだろっ、エンジンルピーチ！」

「おっ♡凄っ。。。これ、激し過ぎっ♡カリ高の。。。極太チ○ポツ♡
そこっ♡そこっ♡良いっ。。。♡気持ち良いところ当たってっ。。。
チ○ポ良いっ♡オマ○コ気持ち良いのおっ。。。♡」

「ぐおおっ。。。！
イクぞっ！中に出すぞっ。。。！」

「来てえっ♡ピーチのオマ○コに
中出しドツピュンしてえっ。。。♡」



「オオオツ……!
イクぞオツ！」

「ああん♡ドツピュン来たあつ♡
怪人ザーメン注がれてるのおつ♡」



ドツピュン♡
ドツピュン♡
ドツピュン♡

ドツピュン♡

ドツピュン♡
ドツピュン♡
ドツピュン♡

「はあ……はあ……ど、どうかしら……これがセックスよ……♡
おかしくなっちゃうくらいすすごく気持ち良いんだから……♡」

「う、うん……すすごく気持ち良さそうだよ」

「ぼく、やってみたい……」

「ぼくとやってよ」

「エンジエルピーチ……!」

「アトォー……♡」

「わ、私と……?」

「勘違いするなよ、ガキ共……」

「始めに言ったただろ、お前らの教材は母親だとな」

「いいいい加減にして……!無理よ、そんな事!」

「ママと……セックスするの?」

「そ、そうよ……セックスするのはママと……」

「私の相手はこの怪人さんだから……♡」

「トォォォ……」

「そんな…ダメよ、これはいけない事なのっ…!」

「だってママ、オチのチン苦しいよ…!」

「やだっ!早くセックスしたいよ!」

「ぼくも!」

「ねえママ、フェラチオして!」

「野郎ども、聞き分けのない母親を抑えろ
ついでに邪魔な服も脱がしておけっ!」

「おいエンジェルピーチ俺達もだ
第二ラウンドを始めるぞ…!」

「…は、はい…!」

「極太怪人チ○ポでピーチのオマ○コ
ハマまくって下さい…!」

「アチゅ…」

「おち○こ」



「嫌っ、やめて……！」

「セックス気持ち良い
最高だよー……！」

「ああん、ダメエ……」

「中に出さないでえ……！」

「出るよ、ママ……！」

パッパッ

「んっ！んんっ……！」

「ダメだよママ
ちゃんとフェラチオして」

「オマ○コいいよ！
気持ち良いよお！」

「あんっ！
そこ……ダメエ！」

ぽぽぽ

パッパッ

「クックック……」

「ガキの性欲は底無しだな
もう日が暮れてしまうぞ」

「あ、ああ……」

「これではもう以前の様な
家庭には戻れまい
お前のせいだぞ
エンジェルピーチ」

「くっ……」

「それにしても素晴らしい光景だ
欲望を剥き出しにした人間の何と愚かな姿だろうか……!!」

これも全てエンジェルピーチのお陰だ
ククク、協力感謝しているぞ」

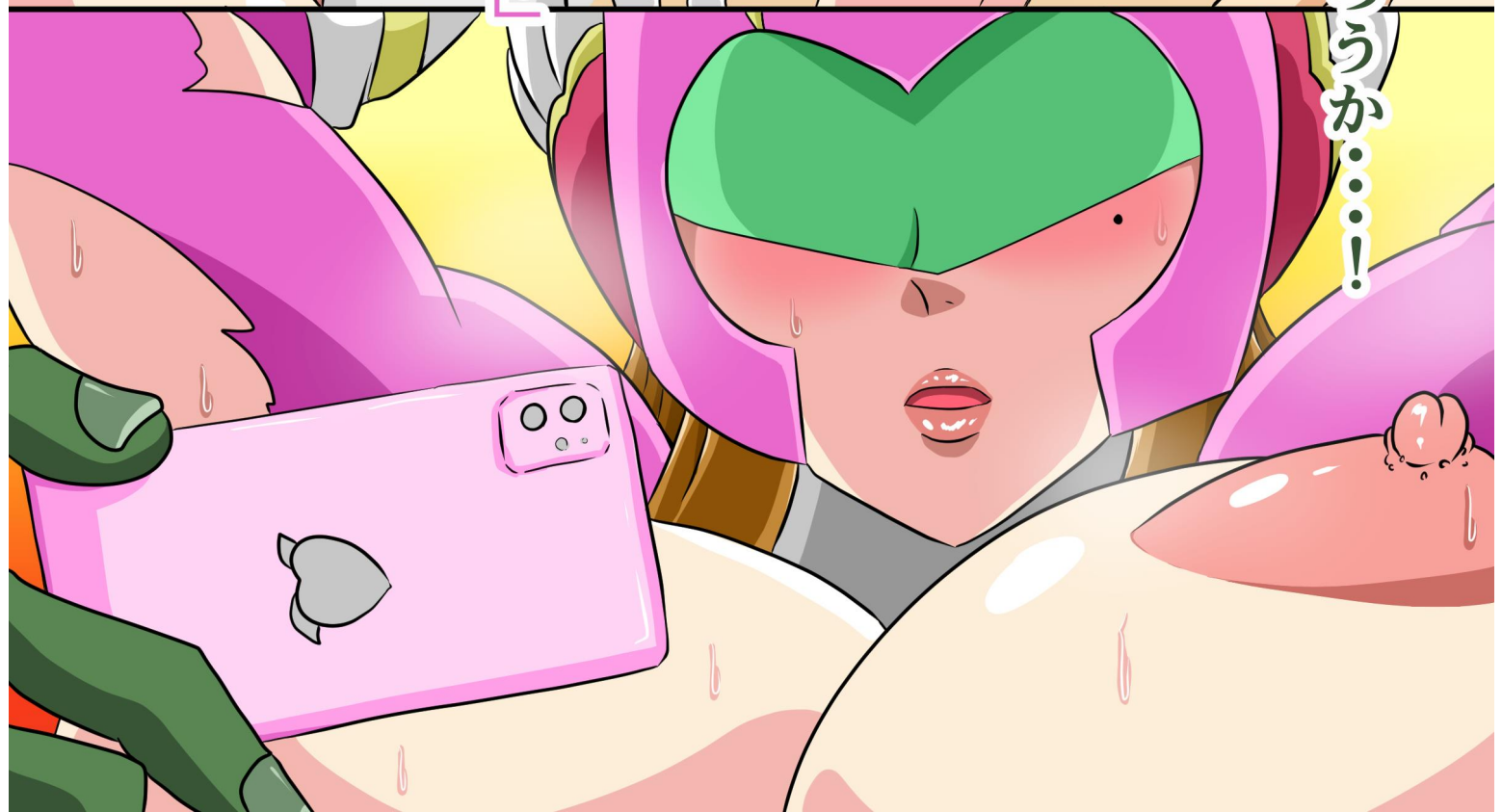
「私の……私のせいでこんな事に……」

「そういえば一つ言い忘れていた
こいつらの今までの行為は
全てこのチャンネルに流していてな……」

「……それは私の……
街の公式動画チャンネルじゃない……!!」

「凄い視聴者の数だぞ
ククク、これは間違いなく過去最高だろう」

「とんでもない再生数……
多くの人達がこの映像を見ている……」



「今後暫くは街中で近親相姦が流行るだろうな
最高じゃないか……」

「どこもかしこも親子がやりまくり！
ブームの火付け奴は正義の味方!!」

「……って感じかな？」

「そんな酷いわ……私そんなつもりじゃ……!」

「ほう？本当にそうか？」

「その割には顔が笑っているぞ？」

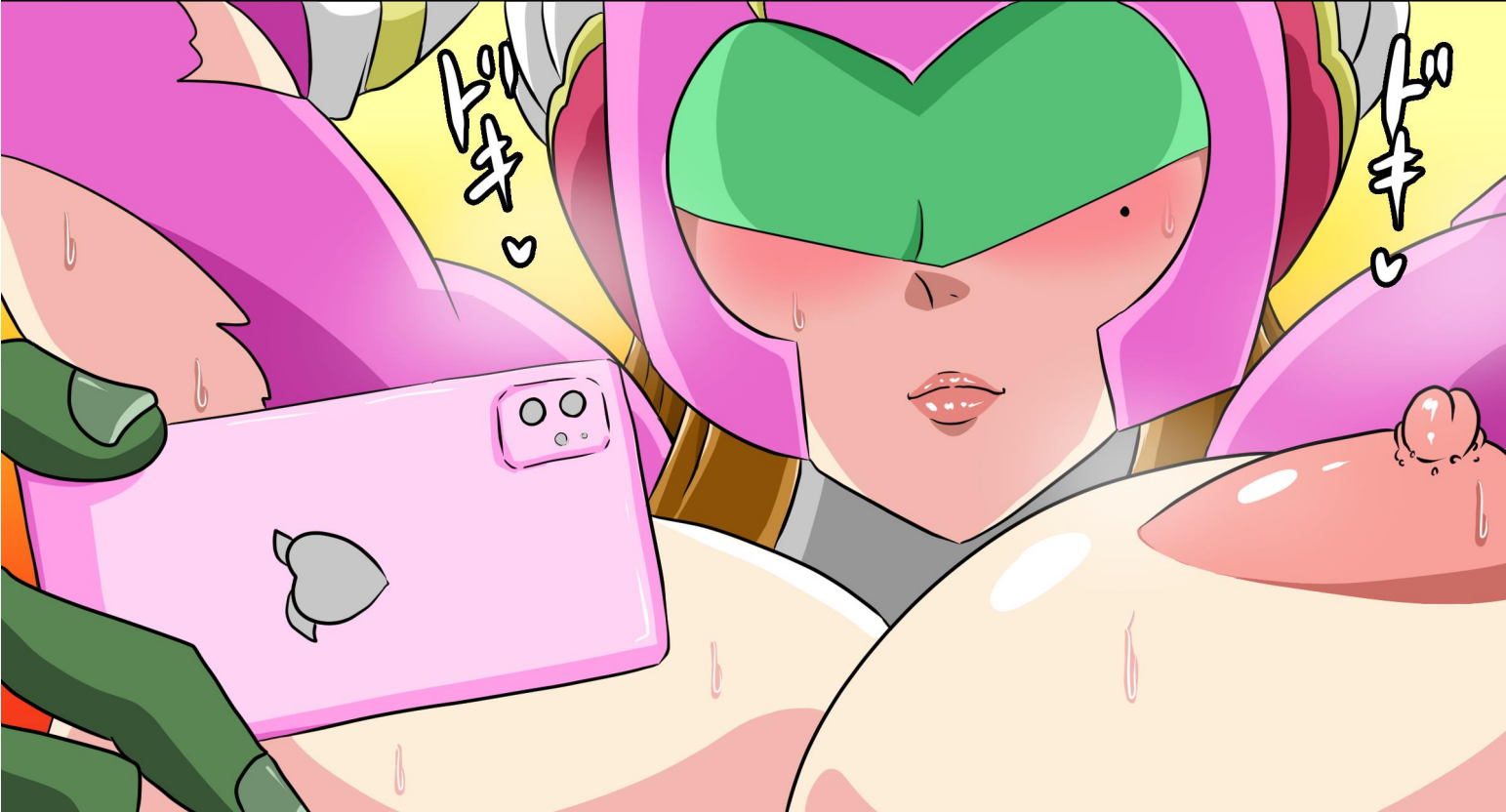
「そ、それは……」

「マ○コもヒクつかせて……」

「しっかり興奮しているではないか」

「違うっ!違うのっ……!」

「これはそういう訳じゃないのおっ……!」



「何が違うものか！」

「近親相姦と聞いてマ○コ濡らしやがって！
ヒーローが聞いて呆れる！この変態女がっ！」

「あぁっ……んはあぁっ……♡」

「さあこの場にいる奴らと多くの視聴者に
謝らんかっ！」

「あぁ……♡ご、ごめんなさい
怪人チ○ポに屈して、守るべき子供達に
近親相姦までさせて、それを生放送で
流しちゃって、挙句興奮してオマ○コ
濡らしちゃって……ごめんなさいっ♡」

「ククク、いいぞ
感情のこもった素晴らしい謝罪だったぞ」



「では、最後は俺達のハメ動画で終わるとするか
ガキ共のぬるいセックスだけでは視聴者も
飽きてしまうだろうからな……」

「……っ♡」

またアナタのチ○ポ、ハメるの……?」

「そうだ、今度は先程の様に優しくはないぞ
俺の本気を見せてやる……」

「あ、あれで全力じゃなかったなんて……♡」

「ククク、見てみる 早くお前のハメ姿を見たいと
もの凄いコメント数だぞ……
ほら、熱心な視聴者に返事をしないか」

「はあい♡皆、チ○ポシコる準備は出来たかな?
それじゃあ怪人に中出しキメられるピーチの
ガチハメ動画、しっかり見ててね……♡」

「……っ♡」

